


ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.047 }
2021 3.10

特集 ONE TEAM プロジェクト

学生プロジェクト／松本大学サタ・プロジェクト・まつもと／information



南安曇農業高校でのヤギとのふれあい



地域づくり考房『ゆめ』
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の全学生を対象に、学生と地域住民とのふれあいを大切にして取り組む地域連携活動の支援を行っています。



ONE TEAM プロジェクトを終えて



ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、地域活動の第一歩として、地域を知ることが目的とした「ONE TEAMプロジェクト」を今年度新たに企画しました。学生が地域を知り、地域に参加し、地域とは何かを住民と共に学んでいます。



11月 いのちと平和を考える



地

域から見た「いのちと平和」について学びました。元四賀村村長の中島学さんから軍隊での戦争体験をお聞きし、その後、四賀地区住民の矢満田登さん、草間侃二さん、佐々木清夫さんにも加わっていただき戦時中の地域の暮らしの様子を伺いました。地域の平和についてどのように後世に伝えていくべきかを考える大切な機会となりました。

「ゆめ」編集の 活動紹介

学生プロジェクト「ゆめ」編集のメンバーが、ご協力いただいた数名の方にインタビューをし、編集しました。お答えいただいた皆さまには、多くのメッセージをいただきまして、ありがとうございました。



矢満田登さんを囲んでお話を伺う学生たち

私は14歳で第二次世界大戦へ参加しました。赤紙が届けば命を投げ打って戦地に赴かなければならない時代でした。戦争は惨めで、決して繰り返してはいけないものです。学生の皆さんには悔いなく意義のある人生を生きてほしいと思います。自分の人生は自分で開拓するものです。せっかくもらった人生を大事に使ってください。

中島学 92歳



戦中はすでに不利であった前線へ行く兵士たちを涙ながら見送りました。彼らの特攻前夜を考えるととてもやりきれない気持ちになりました。今後を生きる学生の皆さんには戦争が起きる原因解明とともに、戦争を再び起こさないように政治などにも興味を持ち皆が同じ姿勢で考えることのできる環境作りをしていただきたいです。

草間侃二 90歳

戦後75年が過ぎ、あの悲惨な戦争の正確な思いを語る人が少なくなりつつある今、戦中戦後の確かな歴史とそれに続く現在の姿を確認し、未来の平和につながるプロジェクトに参加しその事を伝えたいと思いました。更に兵士は勿論、余り語られない銃後の守りも大変であり、国全体が悲惨な思いをすることも伝えたいと思いました。

佐々木清夫 81歳



10月

食といのちを考える ～南安曇農業高等学校～



同 校の小池晃先生の指導のもとで食に関わる教材を使って様々な体験をしました。まず、学生が持ち寄った各地の水のテイスティングを通じて水と食の関係について学びました。水はすべての食の原点であり、その味や水質も地域によって大きく異なることがわかり、水と食と地域が深く関わっていることを痛感しました。その後、ドイツと比較しながら食肉加工の違いを学びソーセージを試食しました。日常、私たちが食べる食品でも、場所や国によってその作り方や考え方は大きく異なり、

それが住む人々の生活習慣と関わっていることを学ぶことができました。また「ヤギ」の育て方についても学び、農業と食、人と動物の関わり合いを知ることができました。食を通じて「いのち」をいただくことが、環境や生命や時間など私たちの身の回りの多くの要因に支えられながら成り立っており、改めてその恩恵に感謝をしたいと思いました。農業高校の施設を見学させていただくことで、普通高校では経験のできない分野を知ることができ、私たちの知らなかった学びの範疇が大きく広がった気がしました。

12月

四賀地区の福祉行政を学び、 支え合いの仕組みを知る



四 賀地区で、今年度のONE TEAMプロジェクトの総まとめをしました。まず、職員が撮影してきた動画を通して住民の生の声を聞き、どんな支え合いの中暮らしているのかを考えました。地域づくりセンター長の胡桃沢伸一さん、地域包括支援センターの丸山茜さんからは、地域の現状や四賀地区の地域づくりの特徴を学び、社会福祉協議会の花村一枝さんからは先進的に取り組まれている地域の支え合い活動について学びました。そして、前松本市副市長の坪田明男さんから「5人の市長から学ぶ人間学」と題した講演をいただきました。歴代市長の信念や坪田さんの生き方を聞き、学生からは「人の上に立つより支える人に、という思想は大切だと思った」、「忍耐力の重要性を学んだ」などの感想が寄せられました。活動を通して、人と人とのつながりの大切さを感じたという声もありました。

武 沢



キッズホッケー

児童センターの子どもたちと遊ぶ機会を作ることが難しかったけれど、ホッケーのルールに関するポスターの作成を通して関わりを持ってました。来年度も継続していきたいです。

山 後



子どもあそび隊

今までのような地域の方に大学へ来てもらう活動はできなかつたですが、保育園と関わる活動を考え実行しました。来年度も新しい方法を探しながら活動したいです。

真 関



「ゆめ」編集

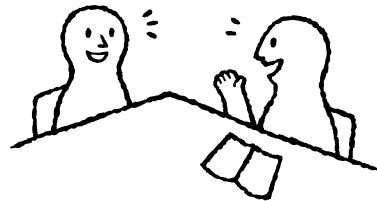
今年度は地域での活動が難しくそれでも何かできないかをメンバー全員で考え抜いた一年でした。来年度は今年度の会議で出たやりたいことなどを実行できる一年にしたいです。



『ゆめ』には、個別の目的を持って地域連携活動へ取り組んでいる学生プロジェクトが13組あります。2020年度の活動を振り返ってどのような感想を持ったでしょうか。コロナ禍に揺れた1年でしたが、各学生プロジェクトの代表の皆さんから、感動したこと、思うようにできなかったことなど、感じた一言を気軽に述べてもらいましょう！



学生プロ ひとこと



すすはなプロジェクト (元 すすき川花火大会プロジェクト)

人と会うのが難しい中で、手紙での交流やネットを使って話し合ってきました。また、親しみやすく呼びやすくなるよう「すすはなプロジェクト」に改名しました。



窪 田

キッズスポーツ スクール

今年度は一度もスクールを開催できませんでしたが、イクジにて数回、子ども遊びの紹介を掲載しました。来年度もできることを模索しながら活動していきたいと思います。



野 本

Sign

今年度はメンバーと集まったり、地域の方と交流をすることなど思うような活動はできませんでした。来年度は今年度予定していた講習会やメンバー集めを頑張りたいです。



下 里

小田



松 本大学サンタ・プロジェクト・まつもと

今年度はサミットの開催が中止になってしまいましたが、感染拡大防止対策を徹底し、市民サンタから贈られた本を無事に子どもたちに届けることができました。

沼田



あ るぷすタウン

メンバー全員で「今できること」をテーマに話し合い、クイズを小学生に向け郵送しました。返信が届いて、直接会うことはできないけど近くにいうという繋がりを感じました。

宮尾



CoderDojo 松本 @松本大学

今年度は顔合わせをすることが難しい状況でしたので、来年度は今年度にはなかった新しいものを企画していきたいと思います。メンバー一同頑張ります。

プロジェクト 報告会

え えじゃん栄村

今年度は一度だけ栄村小滝を訪れました。多くの学生が小滝ならではの美しい景色や自然、温かい雰囲気に触れ、魅力に気付き感動していました。こうした活動をこれからも進め、栄村の魅力を発信できるよう頑張ります。

花岡



松 本 BBS 会

オンラインで意思疎通を取り、昨年度の課題や新しい活動の提案をしました。今後も会員一人ひとりが、更生保護活動の教養を深め、積極的に行事に参加できるよう取り組みます。



小木曾

◎ いただきます!!

くれき野野菜クラブさんと収穫したもち米を、おはぎにして新村児童センターの子どもたちへ提供するなど、それぞれの活動を繋げていくことができ、地域との関わりが深い活動ができたと思います。



田村

茶 房「みずゞ屋」

地域の方と文通を通して交流をするお手紙プロジェクトを行ってきました。地域の方が喜ぶ顔を思い浮かべながら書くのは、私たちも明るい気持ちになれる活動となりました。



千野



松本大学サタ・プロジェクト・まつもと



クリスマスに施設や病院で過ごす子どもたちに、市民がサタになって本を購入してもらい松本、安曇野市内の八つの施設や病院に本を贈り届ける活動「サタ・プロジェクト・まつもと」が今年度も行われました。

今年度は、新型コロナウイルス感染で病院や施設では面会の制限や行事の中止などで子どもたちの楽しみが奪われ、寂しい想いをしている中、少しでも子どもたちに笑顔になってもらいたいと感染予防に配慮して例年のような個人宛ではなく施設や病院の共有スペースに置く本を贈りました。

送り先の信州大学付属病院、県立こども病院、県信濃学園、県松本児童相談所、松本赤十字乳児院、松本児童園、県松本あさひ学園、城西病院小児科病棟の子どもたちに、メンバーが作ったクリスマスらしく飾った可愛い箱に一冊ずつ丁寧に本を入れました。今年度は、市民の皆さんの温かい思いから目標より20冊以上多い342冊が寄せられ、メンバーは市民の皆さんの温かい思いに感謝してプレゼントの本を子どもたちに届けることができました。



あるぷすタウン



「あるぷすタウン」は、小学4年生～中学3年生の子どもたちに就業・納税・消費などの社会の仕組みを学んでもらう体験型イベントです。プロジェクトメンバーたちが地域企業など専門知識を持つ方たちにご協力いただきながら企画運営しています。昨年度9月の開催以降、メンバーも次の開催を楽しみに準備していましたが、インフルエンザ流行拡大を受けて中止した経験も踏まえ、開催時期を次年度以降へ先送りすることにしました。

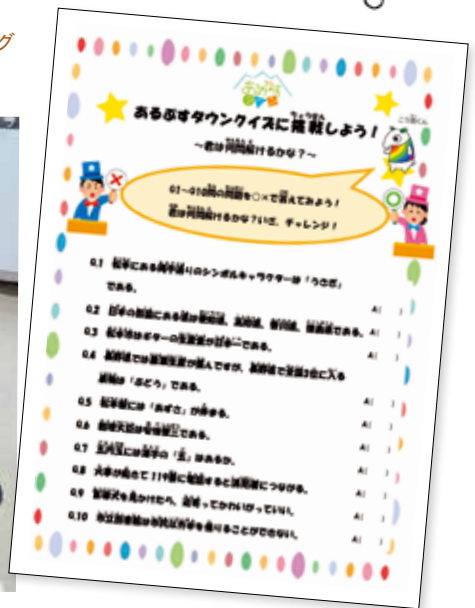
メンバーたちは、子どもたちに直接会うことが難しい状況の中でも何か社会の仕組みを学んでもらう機会を提供できないだろうかと模索し、〇×クイズを作成して発信することを決めました。クイズの難易度を調整するため、対象年齢を小学3～6年

生として10月に参加者を募集し、11月には応募者と過去のあるぷすタウンへの参加者へクイズを送ることができました。例年とは違う取り組みとなりましたが、新しいアプローチを考えられたことはメンバーにとって良い経験になりました。クイズの回答・解説はブログで一般公開していますのでぜひご覧ください。

<http://alpstown.naganoblog.jp/>



あるぷすタウンブログ
QRコード



キッズスポーツスクール

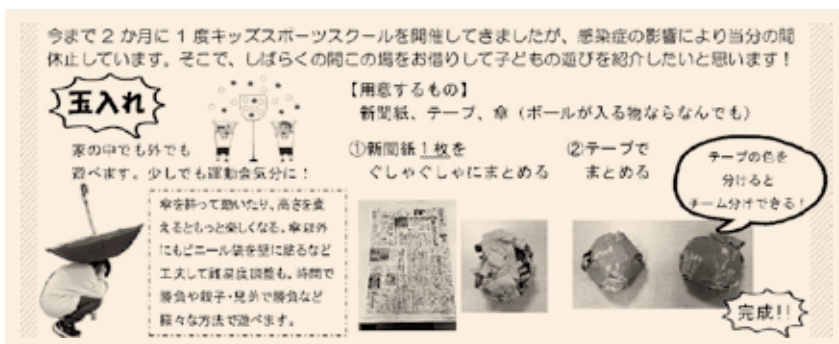


学生プロジェクト「キッズスポーツスクール」では、地域の子どもたちに体を動かす楽しさを知ってもらうためのスクール開催を主な活動として取り組んできましたが、今年度は感染症の影響もあり、スクールの開催は当分の間休止することとなりました。

これまでと違う形での活動をできないかとメンバー同士で話し合い、スクールの開催告知で利用していたフリーペーパー「月刊イクジまつもと」の紙面を通じて、新聞紙やガムテープ、

傘など、家庭にあるものを使って楽しめる遊びの情報発信を行うことにしました。

発信できた回数は多くありませんでしたが、運動会が中止になってしまった子どもたちが少しでも気分を味わえるよう、運動会の時期に玉入れを紹介するなど、ねらいを持って発信することを心掛けていました。また、実際にメンバー同士で遊んでみた写真を掲載するなど、相手に伝わりやすいような記事になるよう工夫する様子が見られました。



お知らせ

『ゆめ』サイトリニューアル！

2020年度は学外での活動機会が少なくなってしまったことが残念ではありましたが、本通信のリニューアルや各種SNSによる発信の開始など、広報の充実化を図ることができました。また、以前から準備を重ねていたサイトリニューアルも2月に完了し、一般公開されました。

サイト全体のデザインや掲載内容を大きく見直したリニューアルは2009年以來のことです。この間、随時変化していく活動状況へ掲載内容の更新や新ページの増築などに対応してきましたが、古い情報に目が留まりやすくなっている面があったため、サイトを通じて寄せられる問合せの内容が現状に即していないことが多々ありました。また、増築によってサイトの全体像がわかりにくくなってしまったところも改善点として挙がっていたため、今回のリニューアルとなりました。

サイトへはページ下部のQRコードまたはURLからアクセスしてください。



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>

活動報告会

3月5日(金)に今年度の活動報告会を行いました。活動するのが厳しい状況の中、学生たちはどんなことを考え、工夫してきたのかを意見交換できました。当日の様子は各SNSをご覧ください。

『つぶやき』

地域の方からの声かけや学生のふとした感想など、交流の中で出てきた一言をお届けします。今回は12月の「ONE TEAMプロジェクト」でご協力いただいた、前松本市副市長の坪田明男さんから学生へ向けたメッセージです。

#ONE TEAMプロジェクト
#松本市四賀地区



これまで多くの人と信頼関係を築いてこられた坪田さん。貴重なお話をいただき、本当にありがとうございました。

学生の皆さんの「四賀での学び」についての感想文を拝読した。経済成長の恩恵を経験したことのない皆さんは、コロナ禍もあって、重苦しく生きにくい今の世で、けなげにも耐えながら学生生活を過ごしている姿が垣間見えた。また、山村に暮らす四賀の人々の「助け合い」の姿から、多くのものを学んだとも綴られていた。

安保闘争に明け暮れながらも、高度経済成長下の学生だった私の世代と異なり、今の学生たちは地域を見つめ現実をしっかり受け止め、人間力も付いており、近い将来、地域の担い手になることは間違いないと思う。他方で、今だからこそ大いに「青春を謳歌」し、はじめてほしいとも思った。

坪田明男さん



お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階 【開館日時】月～金 10:00～18:00
【TEL】0263-48-7213 【FAX】0263-48-7216 【E-mail】community@t.matsu.ac.jp

【SNS】



YouTube



Twitter



Instagram



CHIRIQUHARINOUYUME



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>

